

改訂版はしがき

時代は、単なるコンピュータ化からコンピュータ=ネットワーク化へと動いています。

経済学や経営学を学ぶ者が身に付けるべきことは、いうまでもなく経済現象の観察する目、および理論体系や経済分析の方法に関する知識です。ところが、現代ではコンピュータとネットワークを利用すれば、経済現象についての知識と経済分析の方法を以前よりも容易に会得し、経済理論をより具体的に理解できるようになっています。そこでわれわれは、こんな便利なモノを利用しない手はないと考えるわけです。

本書は、次のような段階に分けて、これらの知識力と技能を各章で養おうとしています。

- ① ネットワーク・ファイル管理・日本語入力の利用能力：ネットワークの基礎知識（第1章）
- ② 情報交換：電子メール（第2章）
- ③ データの収集：インターネット（第3章）、統計体系（第10章）
- ④ 指標作成：MS-Excel（第5・6章）、記述統計（第11章）、国民経済計算（第13章）
- ⑤ グラフ化・分析：MS-Excel、推測統計（第12章）、産業連関分析（第14章）、回帰分析（第15章）
- ⑥ レポート作成・プレゼンテーション：ワープロ=MS-Word（第4章）、MS-PowerPoint（第8章）
- ⑦ 経済理論の理解：MS-Excelを道具とした理論学習（第9章）

ビジネスの世界では、これらとともに、データベース=MS-Access（第7章）は重要です。

第Ⅱ部はExcelを用いた経済分析・統計的方法を解説していますが、第Ⅰ部も上記のように経済学・経営学を学ぶ者を意識して書いています。この点が、普通のインターネットやワープロ・表計算の教科書と区別される本書の特徴で

す。

本書は、大阪経済大学の経済学部と経営学部で情報処理および統計学関係の科目を担当する教員が作成しました。過去2度の教科書——『経済分析のための情報処理入門』1993年と『情報処理の基礎と経済分析』1997年——に比べた重点は、ネットワーク化に合わせて、電子メール・インターネット＝ブラウザー・統計データのインターネットからの取得を強化した点です。さらに今回は、OSとアプリケーションは、WindowsVista、Office 2007に合わせて改訂しました。

法律文化社の田麿純子氏には、前2回の教科書でもお世話になりましたが、今回も執筆者会議・編集員会議にも出席していただくなど、さまざまな労力をおかけしました。この改訂版からは、同編集部の瀧本佳代氏にもお手をわずらわせました。厚くお礼申し上げます。

2008年1月

編 者